

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立八女農業高等学校

自己評価

学校関係者評価

学校運営計画(4月)				評価(総合)	評価(総合)	自己評価は	
学校運営方針	教育基本法及び学校教育法に基づき、人格の完成を目指し、農業の意義や役割の理解と「農業に関する将来のスペシャリスト」として必要な専門知識・技術を習得させる。 校訓「自律・創造・協同」を旨としながらより良い校風の樹立に努め、「厳しさや苦しさを超える自律心」、「感謝と思いやりの心」、自己実現のために必要な「創意工夫する創造力」を育成し、農業及び地域産業並びに地域社会の発展と活性化に寄与できる人材づくりを目指す。			A	A	A : 適切である	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	B : 概ね適切である				
【成果】感染対策を講じ様々な学校行事を再開できた。学習面ではICT環境が徐々に整うとともに指導方法の工夫により、個別最適な学びが可能となり各授業でICTを活用した授業改善が図られている。学校農業クラブ活動では、全国大会や九州大会へ出場し受賞することができた。学校行事では本校の歴史や先人の思いを学び、愛校心や自己有用感を育むことにつながった。研究協力校として2年目を迎えたワンヘルズ教育では、森林環境を学ぶ学習、動物の飼育環境を考える学習を中心とする分野において充実することができた。本校独自の特色ある教育活動が一層充実できる環境が整ったことにより、生徒の学習意欲向上につながり、6年連続進路決定100%を実現することができた。生徒募集では、定員割れ解消に向け広報活動や地域連携事業を充実したことにより、定員割れを解消した。 【課題】コロナ禍の影響で生徒が主体的に活動する機会が激減し、主体性の育成に課題を残した。挨拶や生徒会活動、部活動など生徒の主体的な活動を正常化するため八女市と連携し、地域に開かれた学校づくりに注力する。加えて、更に魅力ある学校となるよう、カリキュラムの見直しを行い、教育内容を充実していく。	(1) 生徒の確かな学力の育成を図り、地域との交流を深める活動を通して農業に関する将来のスペシャリストとしての自覚と必要な専門知識・技術を習得させる。	①学習目的の明確化と規律ある授業を展開し、日常の授業に対して熱心に取り組む態度を育成する。 ②地域との交流活動を通して地域貢献の意識を育み、本校での『学び』を地域に還元する意識と意欲を育む。	C : やや適切である				
	(2) 生徒の学習状況の習熟程度に応じた個別やグループ別指導学習等の取組みを行い、「基礎・基本の徹底」を図る。	①教科・科目全領域において基礎学力の定着に向け、授業の工夫改善を図り、きめ細かい指導を行う。 ②ICTを活用した授業等の工夫と活用を図り、生徒一人一人の学習能力の向上に努める。	D : 不適切である				
	(3) 自尊感情を高め、他人を思いやることのできる心豊かな人間形成に向けた取組を推進し、人権意識の高揚やいじめの撲滅を目指す。	①挨拶等の礼儀作法の徹底、時間厳守や掃除の徹底、服装等、基本的な生活習慣を確立する指導を全職員で取り組む。 ②学校の教育活動全般を通じた人権教育を推進し、生徒一人一人を大切にする学校づくりに努める。 ③生徒支援相談・いじめ問題対策委員会を中心とした組織的な対応により、いじめの発生防止と支援を要する生徒の早期発見に努める。また、SCや訪問相談員、SSWの活用を図り、悩みを抱える生徒等への教育相談機能を活性化させる。 ④ 特別支援教育充実に向けた校内体制を活性化し、生徒の支援体制を整える。					
	(4) 学校の教育活動全般において、人として正しく判断し、行動できる生徒を育成する。	①生徒会活動及び農業クラブ活動の活性化を図り、農業高校の特色を活かし実践力のある生徒を育成する。(生徒による運営、進行等活躍できる機会を増加する。) ②部活動の活性化に向け入部率の向上を図り、併せて学校活性化を図る。					
	(5) 意欲ある入学志願者の確保のため、学校広報を強化し、入試方法の改善を行う。	①各学科の学習内容を精選するとともに魅力ある学科の教育内容をHP、SNS等を駆使し発信する。 ②中校訪問を定期化するとともに出前授業、学校説明会(含 個別)を積極的に行う。 ③中学校や保護者へホームページ、広報誌を活かした広報活動を促進し、特色化選抜入試への理解を強化する。					
(6) 「ワンヘルズ教育」を推進し、地域におけるワンヘルズ教育の拠点を目指す。	①ワンヘルズ教育に関する研究協力校としての経験と実績を踏まえ、教育内容の精選と系統化を行う。 ②ワンヘルズ教育の実践校として先進事例の紹介や交流活動を通じた啓発的取組や教材開発に取り組む。						
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教務部	学習意欲を高め、基礎学力の向上を図る。	各科目の学習目標や計画、評価を点検し、生徒に学習の達成感をもたせる。	A	A	各教科・各学科の年間学習指導計画に基づき、学習の見直しをもたせることができた。また、観点別学習状況の評価によって達成感につながったと感じている。教育支援学習会を実施し、課題がある生徒への学習内容を深めさせることができた。 ノーチャイムにより、生徒の時間管理能力も向上している。観点別学習状況の評価により、学習の過程などを多面的に評価できている。 新学科の特色ある教育内容等について、ホームページ、学校紹介ポスターや学校説明会等で情報を発信することができた。 図書委員の活動を活性化し、図書館にあまり興味を持たない生徒向けのイベントを行うことで、図書館利用者の増加を図る。	A	今後も各学科の特色ある教育内容を広く紹介することに努めている。ノーチャイムの取組や遅刻の減少に向けた取組を継続し、農業高校らしい教育活動を展開してほしい。
		特別活動、HR等を通して、将来の目標や自己の在り方をもたせる。	B				
		考査前学習会を実施して学習内容を深めさせ、基礎学力の向上を図る。	A				
	規律ある授業を実施し、学習環境を充実させる。	教務規定や授業規律を見直し、生徒の学習環境づくりに努める。	A	A			
		時間管理能力の育成に向けて、ノーチャイムを実施する。	A				
		生徒の関心意欲の見取りや学習態度を育成するため、学習の過程などを多面的に評価する。	A				
	農業高校の特色ある教育内容の検討・推進と情報発信を図る。	新学習指導要領をもとに、各教科に係る教育内容の検討や導入を進める。	B	A			
本校の将来ビジョンを構築し、新学科の編成及び教育課程の検討を進める。		A					
本校グランドデザインの達成や各科の特色を情報発信する。		A					
生徒の図書館利用の促進を図り、知的好奇心を喚起する	図書委員への指導を充実させ、委員会を中心とした読書の活性化を図る。	A	A				

生徒指導部	生徒指導課	他者との関わりの中で、互いに認め合い高め合う人間関係形成・社会形成能力の高い生徒の育成	学校行事等を通して、お互いの人格を尊重し、思いやりや責任感を持たせる。	A	A	八女農祭やクラスマッチなど行事を通して、他者と協働する力を高めることができた。次年度は、「キャリア・パスポート」を本格運用し、行事や学期毎に資質・能力を意識して今までの自分を振り返り、なりたい自分に向けた目標設定を考える機会をつくり、基礎的・汎用的能力の向上を図る。 積極的に学校行事に参加する姿勢が見られた。その結果、「高校総体学校推進委員会」や次期生徒会役員、農業クラブ役員の出演演説会でも積極的に希望者が出席、専門委員長募集では定数の2倍以上の生徒が立候補した。 挨拶をする生徒が増えてきたが、さらに自信を持って大きな声で挨拶できるようにしたい。今年度、風紀委員会が挨拶運動に主体的に取り組んだが、次年度はさらに生徒による挨拶運動を拡大したい。	八女農祭などは生徒の姿が生き生きとしており、大変よい。学校行事などを通して、生徒の心身の成長を促す場づくりに努めてほしい。			
			委員会活動や学校行事の中で、社会の一員として社会に貢献しようとする気持ちを育む。	A						
			挨拶が人間関係形成のための大切な一歩であることを理解させ、自ら積極的に挨拶を行わせる。	B						
		コミュニケーション能力が高く、主体的に行動できる生徒の育成	生徒会活動や農業クラブ等の活動に積極的に主体的に参加させ、自身の考えを発表させる。	A	A					
			地域の活性化に繋がる活動に積極的に参加させ、積極的にコミュニケーションをとらせる。	A						
			部活動に加入させ、仲間や先輩たちと合意形成などを図らせる。	B						
	高い規範意識をもち続け、マナーのレベルアップに努めることができる生徒の育成	笑顔で丁寧な挨拶を行わせる。	B	B						
		講演会・学習会の実施により、規範意識やマナーの向上を図る。	B							
		掃除を丁寧にに行わせることにより、整理整頓できる力の醸成や感謝の心などを育ませる。	A							
	保健課	生徒の健康課題やニーズの把握	生徒の健康課題やニーズを把握し、個々の特性・発達段階に応じた継続的支援を工夫する。	A	A			健康診断、個別の健康相談を通し、学校生活における不安、悩み等の困り感を早期に把握し、校内での情報共有と家庭の協力を得て、きめ細やかな支援を行っていく。また、必要に応じ、SCや訪問相談員との連携を図る。 学校全体で取り組む日常の掃除や大掃除を通して校内美化に努めた。今後も学校薬剤師等の助言により、校内の清潔を保ち、感染予防対策を行うことで、充実した学習ができるよう環境を整えていく。 美化委員会、保健委員会を中心に啓発活動や情報発信、委員会活動に取り組むことができた。さらに、環境問題や健康課題に関心を持ち、自らが自発的に積極的に行動できる力をつけさせたい。	生徒の健康管理が安全であるようによく取り組まれている。感染症などへの予防も含め、日常的に必要な自己管理の基礎が身につくよう継続して取り組んでほしい。	
			生徒一人一人が健康と安全に対する意識を高めるよう、きめ細やかな指導を行う。	B						
			学年・他分掌・各種委員会と連携し、健康教育推進事業、SC、SSW、訪問相談の効果的活用に努める。	A						
安心・安全で快適な教育環境づくりへの取り組み		大掃除の計画等を通して、校内美化活動の活発化を進める。	B	B						
		薬剤師による教育環境の調査・点検・改善を図り、学習環境の「整美」を行う。	B							
		消毒液の補充・手洗い場の管理等、日常における学校環境衛生管理を行い感染予防に努める。	A							
委員会活動(保健委員会・美化委員会)の活性化		保健委員会と美化委員会を活用した健康教育等を充実させていく。	B	A						
		美化委員会による行事等での美化活動を実施し、美しい学校づくりを目指す。	A							
		保健委員会による「保健だより」の発行し、健康に関する正しい情報を発信する。	A							
進路指導部		進路指導課	生徒一人ひとりの希望進路を把握し、適切な進路指導を行う。	3学年担任との定期的な会議を実施する。	A	A	新学科に対応すべく、進学先・就職先の開拓のために情報収集に努めること。 個人面談や三者面談を通し、就職・進学を選択を3年生に進級する前に確定させておくこと。 進路行事の内容と順番を精査し、計画的かつ効果的に実施すること。			3年間の取組の成果が、進学や就職の早期決定につながっている。一人一人の適性に応じた進路実現を今後も願いたい。
				就職は、令和4年度に内定した企業との連携を深めるとともに、新規求人開拓にも努める。	A					
				進学は、4年制大学の魅力を伝え進学の選択肢の1つとして考えさせる。	A					
	学年や各科と連携して組織的な指導の充実を図る。		生徒の個人面談を行うことにより、適性に合った進路選択を促す。	A	A					
			就職は、10月末に内定率80%、1月末に内定率100%を目指す。	A						
			進学は、国公立大学への合格を目指し個別指導を徹底する。また、進学者の合格率100%を目指す。	A						
	3年間を通した進路指導の検討と充実に努める。	進路ガイダンスはその目的を事前に理解させ、計画的に実施する。	A	A						
		チャレンジ委員会を中心に、4年制大学への進学希望者数を増やす。	B							
		資格取得を推進する。	A							
	人権・同和教育課	本校における教育活動の全領域において人権・同和教育を積極的に推進する。	人権・同和教育推進委員会の企画と運営を行う。	A	A	第2学年の特設授業見直しを行っている。現在の生徒たちの状況により即した内容で授業を進める。年間の様々な学習会など全職員が参加の態勢をとっている。生徒や地域との関りををよりきめ細やかに育む。 次年度においても、朝の学年での連絡や定例での生徒支援・いじめ問題対策委員会及び養護教諭およびSC・SWWとの情報を職員で共有しながら日々の教育にあたっていく。 昨年から八女地区高等学校および県立学校人権・同和教育推進協議会の事務局として得られた八女地区高等学校等の人権・同和教育での学びを生かしながら、地域の諸機関との関りを大切にしながら活動を進める。		人間関係の構築やコミュニケーション力といった社会性を豊かに育て、いじめ防止やいじめを許さない取組を推進してほしい。		
			全職員が人権・同和教育授業に参加する。	A						
			あらゆる場面で人権教育に取り組む。	B						
本校における生徒の学習を保障し、積極的に生徒の学校生活を支援する。		生徒一人一人の実態を把握し、生徒と教師のつながりを強め、生徒を支援する。	A	A						
		保健課、生徒支援相談・いじめ問題対策委員会等との連携を密にして生徒の問題解決に当たる。	A							
		各種奨学金の案内、手続き等を行う。	A							
職員の協力のもと、八女地区高校および県立学校人権教育推進協議会(合推)事務局運営を行う。		地区合推の定例学習会を開催する。	A	A						
		地区合推の研修会・総会などの企画・運営を行う。	A							
		外部諸機関との連絡・調整を行う。	A							

研修情報部	研修課	職員研修全体の企画・立案及び円滑な運営を図る	学校の教育課題とその解決策や職員のニーズに対応した研修を企画・実施する。	A	A	タブレットをはじめとするICT機器の活用促進のための研修会実施することができた。昨年度より継続してICT推進チームを作り、年2回の研修を計画し、スムーズに実施することができた。特に、Googleスライドの作成方法や実施例を紹介できたことは活用率アップにつながるのではないと思われる。ICT関連以外の研修については、他分掌とタイアップして研修を計画・実施していきたい。また、ICT機器の利用が生徒の主体的な学びにつながるような事例をより多く紹介していきたい。	校舎内ではWifi環境が整備されて何よりであるが、農場では使えない状況があると聞く。農場で動植物に触れたり、観察したりする際に使えるように整備することを望む。
			タブレット導入も視野に入れ、ICT機器の活用法を紹介したり、効果的な指導ができるような研修会を実施し、職員へのサポートを行う。	A			
			研究授業を推奨し、年に2回の授業アンケートを実施することで、個々の授業改善を図る。	B			
		若年教員研修と教育実習生の指導力の育成および向上に繋がる研修を教科・各学科・各分掌と連携して実施する	教員がOJT、OFF-JT、メンター制等を活用できるよサポートし、学校全体が協力して総合的に研修を推進していく。	A			
			若年教員研修や教育実習がスムーズに実施できるよう、校内だけでなく関連機関との連絡や報告文書の送付を遺漏なく行う。	A			
	情報課	ICTを活用した情報教育の推進およびICT活用指導力の向上を図る	初任者や教育実習生の指導力育成および向上につながるよう、指導教員や教科指導員との連携と研修の企画、実施を行う。	A			
			電子黒板やタブレット端末の更なる活用の推進を図り、授業や非常時などに適切に対応できるように活用能力の向上や指導力の向上を目指して、研修会等を開催する。	A			
		校内のPCやネットワーク管理および校務支援システムの円滑な運用を図る	ICT支援員と連携し、授業改善や研修会の充実を図る。	A			
			校内のPCやネットワークが円滑に運用されるように、日常のメンテナンスに心掛け、問題が発生した場合に迅速に対応できるようにする。	A			
			校務支援システムの円滑な運用を図るため、各部各課に校務支援システム担当者を定めてもらい、連携を深めていく。	A			
ホームページの管理・更新を定期的に行う。	各部と連携をしながら、ホームページの管理と更新を定期的に行う。	B					
企画・広報部	式典・行事等の企画、立案及び円滑な運営を図る。	学校運営に係る企画、庶務全般の運営を円滑に行う(会議、行事に係る資料の印刷、管理等)。	B	A	企画広報部で庶務課と広報課の連携が不十分な点があったので、定期的に会議を設けて情報共有を図り、校内の諸々の業務(住所録、学校要覧、議事録作成、学校紹介パンフレット等)を円滑に行う。		
		防火防災避難訓練の企画、立案及び円滑な運営を図る。	A				
		表彰に係るデータの管理、表彰式の計画、表彰状の作成等を遺漏なく行う。	A				
	保護者との連携を強化し、PTA活動を活性化させる。	PTA行事、互助会行事、親和会行事に参加を促し、成功させる。	B	B		A	PTA関係行事の円滑な運営を行う。(地区理事の廃止に伴う規約の改正と役員会・理事会の年間の会議日の設定など)。PTA役員さんの役割の分担化を検討していきたい。各種メディア、学校ホームページ等の広報活動を積極的にを行う。
		PTA総会、地域懇談会、PTA視察研修会等、新型コロナウイルス対策を考慮しながら、企画、立案及び円滑な運営を図る。	A				
		PTA各種委員会活動(合同交通指導、PTA新聞発行、PTA校内バレーボール大会等)全般への支援を行う。	A				
		八女地区PTA行事(バレーボール大会等)への参加・支援を行う。	B				
	広報活動を推進し、中学生や地域に浸透を図る。	広報委員会と連携し、八女農大より発行等で、本校の活動を発信していく。	A	A		A	本校の中学校訪問や中学生進路相談事業などを通して本校の魅力や中学生や保護者の皆様へ広報できるよう工夫する。また全職員で学校広報に携われるように働きかけを行う。
		各学科、各学年と連携を密にして、行事や実習等の情報を収集し、地元メディアと連携し、中学生や地域に発信していく。	A				
		各学科の取組実習等の活動を庶務・広報部に事前連絡してもらい、FM八女等で発信する。また、各新聞等での八女農業高校の記事を庶務・広報部に連絡してもらい、校内にも広報する。	B				
第1学年	基本的生活習慣の確立	ノーチャイムでも時を守れるように、担任・副担任及び学年で連携して指導する。	A	A	担任、副担任及び学年で連携し、学年全体が元気が挨拶することや学校生活に意欲的に取り組むことができた。次年度は2学年として行動できるよう自覚を高めさせる。また修学旅行も控えているため5分前行動の徹底や遅刻、欠席を減少させる取組を実施していく。		
		挨拶をすることがコミュニケーションの基本であることを理解させ、継続的な指導を行う。	A				
		全職員で、着こなしや、言葉遣いの指導を徹底する。	A				
	生徒一人ひとりの希望進路を把握し、適切な進路指導を行う。	進路マップや進路アンケート等を活用して、進路目標を決定していく。	A	A		A	進路指導部と連携して、1年生の内から進路マップやアンケートを実施し進路に意識を高めさせ、自らの進路選択の幅を広げることが出来た。次年度は、早い内から進路指導室の利用や積極的にオープンキャンパスに参加するように進路の意識を高めさせる。
		SPI、進路マップを活用しながら学力の向上を図り、進路希望の実現を図る。	A				
		各種検定・資格取得に向けて指導を徹底する。	B				
規範意識の高揚	人権意識を持たせ、いじめを許さない雰囲気を作る。	A	A	担任、副担任及び学年で連携して生徒の人権意識を高めることによって、学年全体がいじめを許さない雰囲気づくりができた。次年度もいじめを許さない雰囲気作りや校則の遵守及び社会性を身につけることができるよう担任・副担任及び学年が共有し指導する。			
	物事に対して、正しい判断力を身に付けられるように、HRを通じて継続的に指導する。	A					
	校則を遵守させ、頭髪・服装については、生徒指導部と連携を密にして、学年全体で指導する。	A					
第2学年	規範意識の深化	生徒指導部と連携して指導の充実を図り、生徒自らが校則を順守していくことで、中堅学年としての意識を高める。	A	A	A	学年の目標を浸透させることで、ビジョンを共有し気づきの力を伸ばすことができたと考えられる。学校生活アンケートで出てきた内容に早期に対応し、丁寧な指導を心掛け早期の声掛けを行うことができた。	
		学校生活アンケートを活用し、生徒の抱える課題の早期発見・早期対応を図る。	A				
		褒める指導を通して自己肯定感を育み、諸行事や学習活動に対して積極的な取組を促す。	A				
	基本的生活習慣の強化と学習環境の整備	基本的な生活習慣の指導や授業規律の指導を継続し、学習態度の向上を図る。	A	A	A	昨年度に比べ、欠席が多くなっている。1年次は緊張感もありながら取り組んでいたが、気持ちのゆるみが生活のリズムに影響し、結果的に体調不良を増やしている。希望進路に向けた意識改革が必要である。	
		教室の環境を整える。(持ち物の整理・整頓、ごみの分別、清掃の徹底)	A				
		お互いに協力して学ぶ仲間作りの意識を持たせる。	A				
進路実現に向けた指導の充実	個人面談等を通して生徒の掌握に努め生徒に対応したきめ細やかな指導を行う。	B	B	A	今年度はたくさんのガイダンスや外部の授業を取り入れることができた。そこから明確な進路の方向性が見えてきているが、基礎的な学力や資格の取得において、意欲に差が出ているため次年度に向けた基礎力の定着を図りたい。		
	進路指導部と連携を図り、進路情報を提供し進路意識を高めさせる。	A					
	各種検定や資格の取得を積極的に取り組ませる。	B					
A	A	きめ細かに生徒の対応をしていることが分かった。3年生に向けて充実した高校生活になるよう支援を継続してほしい。					

第3学年	進路実現に向けた指導の充実	進路指導部と連携して生徒に的確な情報を提供し、進路の明確化を図る。	A	A	A	進路決定に向けて早く行動を開始することができたことなどから、全員の進路獲得に結び付いた。ただし、4年制大学進学には、1学期中に志望理由を固め、夏季休業中にその内容を深めるよう指導していく必要がある。	A	一人一人の進路実現が年内のうちに実現できている点は、今までの本人の努力と学校の取組が大きいと感じる。また3年生が卒業まで緩むことなく、社会にでてからも通用する力をはぐんでいけるような指導を望む。
		進路指導部及び学科・各教科と連携して個人面談や三者面談を計画的に行い、進路実現に向け主体的に行動させる。	A					
		朝学習を充実させ、基礎学力の定着を図る。	B					
		各種検定・資格取得に意欲的に取り組ませる。	A					
	最上級生として学校全体をリードする生徒の育成	生活面・学習面において1・2年生の模範となるよう、八女農生としての自覚と愛校心を培う。	A	A	A	八女農祭等の学校行事において、最上級生として下級生をリードした活動が見られた。生徒が主体的に活動できる場をさらに増やしていきたい。		
		学校行事に際し、1・2年生を指導し協力して活動する意識と態度を育成する。	A					
基本的な生活習慣及び規範意識の確立	進路決定後も生活習慣の乱れがないよう、無断欠席や遅刻者をなくす指導を継続する。	B	B	B	進路決定後、遅刻・欠席が増えた生徒がいる。2学期末から3学期中の指導内容を工夫し、学校生活のモチベーションを高められるようにしていきたい。			
	頭髮・服装および問題行動等については生徒指導部と協力し、学年団として徹底指導を図る。	B						
	教室の環境を整える。(持ち物の整理・整頓、ごみの分別、清掃の徹底)	A						
農務部	農業クラブ活動の充実と各種競技の組織的指導	農業クラブ活動の活性化を図り、生徒による運営、進行等活躍できる機会の増加に取り組む。	A	A	A	農務部の運営を各科協力して円滑に進め、業務明確化を行う。プロジェクト発表、意見発表、農業鑑定競技等の指導では、各学科の専門性を生かし組織的に行う。	A	地域と連携した学習活動によって生徒の学び深まっている。これからも学校が地域の学びの場であるよう取り組んでほしい。
		プロジェクト発表、意見発表、農業鑑定競技等の指導を学科の枠を越えより組織的に行う。	B					
	農業教育の理解とイベントによる学校PR	体験入学の運営を円滑に行い農業教育の理解に努める。	A	A	A	ワンヘルス教育の学習内容を具体的に考えながら検討する。農務部の行事の精選する。特に「ホリデーハッピースクール」の継続と、運営方法の再検討を行う。農業高校アクションプラン(本校の取組)を実現できるよう農務部全体が「チーム八女農」として取り組む体制を強化する。		
		地域におけるワンヘルス教育の拠点を目指したイベントの企画・運営活動に力を入れる。	A					
	農場の環境整備と備品の充実、ICTの導入	インターンシップの受け入れ先の検討や事前指導・事後指導の徹底を図る。	A	A	A	今後、実験室・実習室の学習環境の整理・整頓に努め、各学科・専攻や部門の農場予算と授業の在り方について検討を深める。農場全体で施設・設備等の更新や環境センサーの有効利用を検討する。		
		必要備品の購入と計画的な廃棄処分を行う。	A					
授業に活かせる農場・実験室・実習室の整備を行う。		A						
	農業科目におけるICTの導入と活用法について研修会を企画・実施する。	A						
生産技術科	教育内容の精選と充実	ワンヘルス教育の実践校として交流活動を通じた啓発的取組や教材開発に取り組む。	A	A	A	レンアイ米の栽培、ほかし肥料を使用した高品質果樹の栽培などワンヘルス教育と結びつけた学習を展開することが出来た。今後、ワンヘルス教育の中でも「環境」の分野に力を入れた学習内容を検討する。	A	地域の子供たちに教える場面があつてよい。一人一人の進路実現に向けて、知識と技術をしっかりと身に付けさせてほしい。
		学習環境の整備を推進し、各専攻の生産物の品質を高める。	A					
		生産から販売までの系統的な学習を通して農業経営力を育成する。	A					
	進路実現に向けた組織的な指導	組織的に指導を行い、規範意識の向上、基本的な生活習慣を身に付けさせる。(挨拶等の礼儀作法、時間厳守、身だしなみ、授業規律等)	A	A	A	3年生の進路実現に向けて、個別の面接指導を丁寧に行った。担任と進路指導部と連携して、早い段階から支援ができる体制を強化する。		
		1年から進路先を研究させ(進路室の活用、パソコンでの情報収集、個人面談など)進路実現に向けて取り組ませる。	B					
		進路部や担任と連携し、生徒一人一人にチューターが生徒に応じた指導を行う。(面接、小論文、4年制大学進学対策等)	A					
地域社会の発展と活性化に寄与できる教育活動。	販売実習や地域の保育園及び小・中学生等の農業体験授業を積極的にを行い、地域に根ざした農業教育の充実を図る。	A	A	A	地域の小学校と茶・米の栽培を年間を通して行うなど積極的な地域交流活動をすることが出来た。「八女市民との協働によるまちづくり」など地域社会の発展に寄与できる教育活動のさらなる充実を図る。			
	インターンシップを推進し、企業や研究機関との連携を図り、最先端の農業の知識・技術の習得に努める。	A						
	果樹園やトラクタ演習場などの北山農場観光農園化推進する。	A						
システム園芸科	教育内容の充実、指導の工夫・改善を図る	学科の特色を生かし、農業生産物の充実と付加価値のある農作物生産をする。	A	A	A	環境制御機器の充実を図りきめ細やかな栽培管理に取組みたい。花の新たな活用法の導入や野菜の新たな作型を実施したい。	A	プロジェクト発表では、エディブルフラワー祭りなど、地域の観光業と連携した取組は素晴らしかった。地域の農業の発展に向けてよく取り組んでいる。
		一年生に対して学科の内容を分かり易く説明し特色ある教育内容の充実を図る。	A					
		新たな栽培技術に取り込み高度な知識の習得を図る。	A					
	基本的な生活習慣の確立並びに風紀指導の充実を図る	毎時の授業において服装、頭髮、挨拶、言葉遣い及び時間厳守等の指導を行い規律ある学校生活を送らせる。	A	A	A	特に班別・個人研究を指導しながら生徒一人ひとりに目を向け学習指導だけでなく生活態度等にも気を配るよう心掛ける。		
		実習時間等を活用し生徒一人ひとりの理解に努める。	B					
	学習意欲の向上を図る	課題解決学習を積極的に取り組み、学習意欲の向上を図ると共に自主性を身につけさせ、生徒の探究心を引き出させる。	A	A	A	本学科は、2年次には生徒全員にプロジェクト研究を班ごとに取り組ませ、3年次には「課題研究」で一人、一研究を指導している。その中でさらに、自主性と課題解決能力の向上に努めたい。		
資格取得のための指導を強化し合格率の向上と上級の資格取得を目指させスキルアップを図り、進路実現に繋げる。		B						
栽培物の担当を決め責任感と共に学習意欲の向上を図る。		A						
動物ペット科	学科の特色を活かした農業教育の実践と主体的な学習態度の育成する。	新学科の特色や科訓「敬天愛動」の精神を理解させ、ワンヘルス教育を推進する。	A	A	A	ワンヘルスの実践協力校として、地域の中学生を相手に動物ふれあい体験を実施し、普段の座学や実習で身に付けた知識・技術を主体的に教えることが出来た。次年度は、県内に動物ペット科のワンヘルスの取組のPRやワンヘルスを常に考えながら、座学や実習に取り組ませる。	A	人と動物の関わりやワンヘルス教育について熱心に取り組んでいることが分かった。県内でも先進的な取組に期待している。
		見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、社会を支え産業の担う職業人として必要な資質・能力を育成する。	B					
		ワンヘルス教育において主体性のある生徒の育成を目指す。	A					
	新学科を地域にアピールし、地域に開かれた農場作りを推進する。	保育園・小中学校との交流や出前授業・開放講座等の意欲的な実施。	A	A	A	地域イベントの参加や動物ペット科の取組発表等、学習内容を地域に宣伝出来た。次年度は、新しい動物の導入やワンヘルス、アニマルウェルフェアの考えを取り入れた飼育環境の改善等、地域に開かれた農場作りを目指す。		
		学習活動を学校HPや学校便りや道の駅や販売所での動物ペット科の行事をパネルで積極的に発信し、動物ペット科の取り組みや学習内容を地域に理解させる。	A					
		祭り(道の駅等)や地域行事への参加等による地域との繋がりを強める。	A					
令和6年度以降に向けた進路開拓と進路指導	進路指導部と連携し、新たな進路開拓(企業・上級学校等)の充実を図る。	A	A	A	インターンシップを通じて、規範意識の向上や職業観を育成することが出来た。次年度は上級学校の進路指導や就職においても公務員や大手企業への就職を日頃の学習活動の中で意識付けをさせる。			
	規範意識の向上や元気のよい挨拶の徹底、基本的な生活習慣の徹底を行う。	A						
	インターンシップを通じて、社会的マナーや職業観を育成を図る。	A						

食品開発科	基本的な生活習慣・社会的マナーの確立	挨拶や正しい言葉遣い、高校生らしい服装や頭髮等、清潔感のある身だしなみについて、意味を考え自ら実践することのできる態度を身につけさせる。	A	A	(1)令和6年度は食品開発科の完成年度となり、来年度は学科としての学習のカリキュラムも十分に検討する。 (2)来年度は1期生の進路決定が控えており、学科全体として進路決定100%を目指して取り組んでいく。 (3)昨年同様、「食」のスペシャリスト育成のため資格取得の検討や教科の学習内容を検討し、生徒の実態に合った内容を実践していく。特に資格指導の充実を図る。 (4)農業クラブの大会をはじめ各種コンクールへの参加及び入賞できるよう日頃の指導体制を検討し、生活科学科・生物利用科の生徒が築いた実績を継承していく。	福岡県六次化商品コンクールでは連続8回目の受賞を果たしており、地域企業と地域農産物を生かした加工品を今後も研究してほしい。
		授業開始・終了での指導を、共通理解を持って行う。	A			
		遅刻・欠席・早退の届け出の徹底し、事後指導について確実にを行う。	B			
	「食」に関するスペシャリストとして知識・技術を取得させる。	「食品製造」「食育」の専門性の知識の習得を図る授業を展開する。八女農ブランドの積極的な開発と資格取得の推進。	A	A		
		生徒の希望に合う外部講師やインターンシップ先の開拓を行い、進路実現につなげる。	A			
		進路指導との連携を図り、生徒の希望や特性を把握し、学科職員の共通理解の基、進路指導を行う。	B			
地域との交流活動を通して、あらゆる場面を学習活動の場とする。	地域連携・外部講師による事業を積極的に導入し、授業を充実させる。	A	A			
	各行事において規律や団結を学び、リーダーの育成と生徒間の協調・連携を深める。	A				
	プロジェクト学習の発表会を各学年で行い、科学的思考力や問題解決能力・コミュニケーション能力を育成する。	B				
生物利用科	学科の特色を活かした農業教育の実践と主体的な学習態度の育成	学科の特色を活かした専門性を深化させる研究活動(プロジェクト学習)、八女農ブランドの積極的な開発と資格取得の推進。	A	A	今年度で生物利用科は閉科になるが、動物科学専攻は動物ベット科へ、食品科学専攻は食品開発科へ発展的な学科変貌をスムーズに移行することができた。 最後の生物利用科3年生は八女農業高校のリーダーとして学校を引っ張り、動物科学専攻生は久しぶりに国立大学合格者を出すことができたし、動物ふれあい体験では小学生や幼稚園児に動物の素晴らしさを体験させることができた。食品加工専攻では福岡県6次化商品コンクールで8年連続高校生の部最高の奨励賞を受賞することができたし、学校農業クラブプロジェクト発表競技会では福岡県大会で最優秀賞を受賞し、九州大会に出場した。 次年度は動物ベット科、食品開発科で伝統を守り八女農業高校の発展に寄与してもらいたい。	閉科となるが、新学科でしっかりと引き継いでいってほしい。
		プロジェクト活動の内容の充実を図り、各学年での発表会を実施することで課題解決能力を育成する。	A			
		農業クラブ活動を充実させ、県大会で各種発表・競技会で2個以上の最優秀賞を獲得する。	A			
		4年制大学をはじめとした進学指導、及び就職指導の充実を図る。	A			
	社会の一員としての生き方を学ばせる生活指導と安全指導の充実・徹底	週1回の定例会議での情報の共有化を図り、教師間で生徒指導の目線を合わせた職員体制で取り組む。	B	B		
		知・徳・体のバランスのとれた人格の形成を図りながら、知識、技術を身につけさせ、生徒の自己実現を図る。	A			
		インターンシップ事前指導の徹底。受入先の開拓。企業とのネットワーク作り。	B			
	開かれた学校作りの推進と地域との連携・PR強化	保育園・小中学校との交流や出前授業・開放講座等の意欲的な実施。	A	A		
		学習活動をHPや学校便り、生物利用科便り、道の駅や販売所のパネルで積極的に発信、生物利用科の取り組みや学習内容を地域に理解させる。	A			
祭り(道の駅等)や地域行事への参加等による地域とのつながりを強める。		A				
北山農場における動物科学専攻施設の地域開放(動物園化)と新しい動物の導入。		A				
生活科学科	生活科独自の学習内容を深化させ、あらゆる場面を学習発表の場とする	科学的思考力の基、食を通じたコミュニケーション力を高めることを目標に授業内容の充実を図る。	A	A	地域と連携した学びを行うことができた。農業鑑定競技や意見発表については伸び悩んでいるところもあるため、次の食品開発科の課題として引き継いでいきたい。	生活科の伝統である久留米耕の実習服がなくなるのことはさみしいが、新学科で新たな伝統をつくってほしい。
		農業クラブ活動を活性化させ、農業鑑定競技や意見発表等の指導体制を強化し、九州大会、全国大会を目指す。	B			
		校内での学びを社会で発揮できるよう、基本的な技術を身につけ創造力を培う。	A			
	基本的な生活習慣の確立と、規律ある授業の展開	挨拶や正しい言葉遣い、高校生らしい服装や頭髮等、清潔感のある身だしなみについて、意味を考え自ら実践することのできる態度を身につけさせる。	A	A		
		遅刻・欠席・早退の届け出を徹底し、事後指導を確実にを行う。	A			
		農業分野とヒューマンサービス・フードデザイン分野との連携を図り、授業の改善や工夫を行う。	A			
	学習成果を進路に結びつける	生徒の進路実現に向けた目的意識を早い段階から高め、個に応じた目標を設定し、全職員で指導を行う。	A	A		
		八女農祭等の学習発表の場を活用し、所属意識を高め、他者貢献の意欲を育むことで社会に寄与できる力を育てる。	A			
		地域との連携や外部講師による事業を積極的に取り入れ、具体的な職業意識を養う。	A			
事務部	電話対応・来客接遇の向上	電話やお客様対応をとおして、相手の立場に立った「丁寧でさわやかな接遇」に努める。	A	A	丁寧さと迅速な対応をすることを継続する。	今後丁寧な対応を心掛けてほしい。
		定期的な校内巡視を行い「必要に応じて予算要求」を行ったりしながら施設の補強や修理を行う。	A			
	老朽化が進む建物の安全管理	職員に対して、機会あるごとに学校全体の安全意識の醸成を図る。	B	A		
		「地域や保護者、PTA・同窓会等から信頼されるような学校作り」をする。本校の教育活動に対する理解と協力を求め、教育活動充実のための予算確保に努める。	A			
	効果的予算執行	職員に対して節電・節水を始めとする経費節減を呼び掛け、節約した予算で必要な予算措置をする。広報活動の予算確保をしたい。	B	A		
		同窓会・PTAの方々との連携しながら適正な予算執行を今後も行う。	A			

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・新学科の完成年度であり、観点別学習状況の評価を含め、生徒が意欲的に学ぶことができるカリキュラムの構築と学習評価の在り方の工夫・改善を進める。
- ・ICTを活用し、校務の効率化やタブレットを活用した授業展開について理解を深め、生徒に還元する。
- ・学校農場のデジタル化によるスマート農業化を通して生徒の創造力や課題解決力を身につけることができるようワンヘルス教育やキャリア教育を充実させる。
- ・生徒の希望する進路実現を目指して、基礎学力の向上や学校生活の充実を図る。
- ・PTAや同窓会、SCや訪問相談員等と協力しながらチーム八女農として生徒一人一人を支援していく。

評価項目以外の意見

地域から森林の保全を含め、林業分野の担い手が減少していることを心配する意見があった。